

第9回新市将来構想策定小委員会

議 事 録

第9回新市将来構想策定小委員会会議録

1 会議を開催した日時及び場所

- ・日 時 平成15年8月8日(金) 午後2時30分
- ・場 所 長岡市役所大会議室

2 会議出席委員の氏名

| | | | |
|-------|-------|-------|-------|
| 豊口 協 | 二澤 和夫 | 山本 俊一 | 外山 康男 |
| 佐々木保男 | 熊倉 幸男 | 米持 昭次 | 坂牧宇一郎 |
| 長谷川 孝 | 朝日 由香 | 村上 雅紀 | 北村 公 |
| 池田 守明 | 小池 進 | 高野 徳義 | 野田 幹男 |

以上 16名

(欠席委員の氏名)

石黒 貞夫

以上 1名

3 議題及び議事の要旨

別紙のとおり

長岡地域任意合併協議会新市将来構想策定小委員会

事務局（北谷）

定刻となりましたので、ただいまより長岡地域任意合併協議会第9回の新市将来構想策定小委員会を開催させていただきます。

本日の小委員会は、石黒委員がご欠席となっておりますが、半数以上の委員のご出席をいただいておりますので、規程により会議が成立していることを報告いたします。

次に、本日の会議資料でございますが、会議次第、資料の1、資料の2、資料の3及び補足資料を配布させていただきます。資料の方はよろしいでしょうか。

それでは、お手元の次第に従いまして進めさせていただきます。恐れ入りますが、ご発言の際はマイクを使われますようお願いいたします。

それでは、議題に入らせていただきます。この後の進行につきましては、豊口委員長よりお願いいたします。

委員長（豊口 協）

それでは、第9回の小委員会を開かせていただきますが、今日は三つほど議題がございます。それぞれ今まで議論していただいたものを整理されたものが今日また出ておりまして、再度ご検討、ご意見をいただいで最終段階に議事を運んでいきたいと、こういうふうに思っております。

3番目の地域別整備・活動方針について、これはこの前の第8回でもいろいろと説明がありましたように、各地域での今度のテーマに対してどういうふうな方針に集約をしているかということがまとめられておりまして、これは今日改めて事務局の方から説明をしていただきながら、かつそれぞれの地域の代表の方にご意見、ご説明をしていただきながら、この委員会としての意見をまとめていきたいと、こういうふうに考えております。よろしくお願ひしたいと思います。

それでは、最初の新市統合ビジョンにつきまして、整理された内容についてポイントを事務局の方からご説明いただきたいと思います。

事務局（竹見）

事務局からご説明いたします。座って失礼させていただきます。

お手元の資料ナンバー1、新市統合ビジョン検討資料をごらんください。こちらの資料は、今までの資料あるいはこちらの小委員会でご検討をされた内容をまとめてみました。

1枚おめくりください。1枚目は、長岡地域・新市統合ビジョンということで、四つの新市地域らしさ価値を統合したことをまとめてあるものです。

2枚目をごらんください。こちらは、検討のための与件ということで、統合ビジョンの考え方をまとめてあります。こちらは、前回ご提示させていただいた資料ですけども、言葉の意味、統合性、それから言葉の響きとかおもしろさ、そしてスローガンの簡潔性というものをこちらの方にご説明してありま

す。

最後のページでありますけれども、検討の経過と前回までの小委員会での主なご意見をまとめております。一番上が当初の案です。それから、前回の候補ということで、中段にまとめてあります。それから、一番下の前回の小委員会での主な意見として、六つほどまとめさせていただきました。

以上の資料をもとにご検討をお願いしたいと思います。

以上です。

委員長（豊口 協）

はい、ありがとうございました。この前までの委員会で一番最初に提案されました案、人財万歳都市という言葉ございますけれども、これ大変評判が悪くて、いろいろ委員の方からご意見いただきましたけれども、その中で候補に上がってありました幾つかの言葉があります。それがその下に列記されておりますが、前回の候補というふうな形でそこにあげられております。これもいろいろそれぞれの言葉には意味がありまして、なかなか甲乙つけがたいということで、ご意見を随分いただきました。その一番下に、この前までのご意見の中からこれはどうだろうかというふうな具体的な幾つかの言葉を各委員の方からいただきました。それがそこに6項目ほどあげられております。今日は再度これを検討いたしまして、非常にふさわしい一つの基本的な考え方を表現するような統合ビジョンの言葉をここで決めていきたいと、こう思っています。

これは、なかなか決まるものではございませんし、宿題としてお考えになって日夜考えておられた方もおられると思いますけれども、もう少し検討する余地もございますので、今日はひとつ自由にご発言をいただきたいと思っております。どなたからでも結構でございますが、いかがでしょうか。これはだめだとか、これはいいとか、そういう一つのはっきりしたご意見でも結構ですけど。

この前は、人財という言葉はいいだろうと、都市もいいだろうと、真ん中に入る言葉を何か探そうじゃないかと、こういうことになっておりました。いかがですか。この言葉はどうしても気に食わないというふうなことで、外していただいても結構ですけど。どうですか、少し外してみますか。人財悠久都市というのは、これはいかがですか。これはいいと思われる方いらっしゃいますか。もしいらっしゃったら手を挙げてください、これはいいと。お二人いましたね。人財長生都市、これはいかがでしょうか。いいぞと思われる方、手を挙げていただいて、2回でも3回でも結構です。今日は、まだ余裕があります。これはないですか。ゼロ、いいですか。敗者復活戦もあり得ますけれども。人財悠久繁栄都市、5人ですか、6人ですか、すごいな。人財長久繁栄都市、これはちょっと戦中派にはひっかかるんですけども、いかがですか、おられませんか。なし。人は財、悠久の都市、お二人ですか、よろしいですか。

そうしますと、今までですと3番目の人財悠久繁栄都市という、二つのキーワードが入っているのが6票とっておりますが、これについて特に挙手をされない方々のご意見をいただきたいと思っております。いらっしゃいませんか。

はい、お願いいたします。

委員（長谷川 孝）

ちょっと感じがかた過ぎるんじゃないかと思います。

委員長（豊口 協）

かた過ぎるということは、多過ぎるということ、それとも文字が。

委員（長谷川 孝）

ずんべんだらりんとしているという意味です。

委員長（豊口 協）

ありがとうございました。要するにめり張りがないということですね。

ほかにどうぞ。はい、お願いいたします。

委員（熊倉幸男）

ちょっと反発して大変申しわけないんでございますけれども、この言葉からすると我々年配にしてみれば、まあまあいいんじゃないかと思えますけれども、若い者から見ると果たして受けとめていただけるものかどうかというふうにちょっと心配をいたしております。もっと次代を担う若者の目線で、繁栄とか、あるいは長久とかという、そういう言葉にとらわれない、そういうものがないかなというふうに感じます。さりとして、いい案があるかという、ちょっとないんですけれども、若者はどういう新しい都市を望んでいるのかということからするならば、突き詰めて考えてみますと、おそらく活気にあふれ、あるいはまた生気に満ちた元気のある都市、そういう都市ですね、そういうものを望んでいるのではないかなというふうに考えております。

ところで、いい言葉がないかということで、ちょっと考えたんですが、ちょっと平凡でございますけれども、活気とか生気とか、あるいは元気、そういうものを表現する言葉として、例えば人財いきいき都市というようなことで、例えば4本柱とのかかわりでも挙げますと、例えば独創企業が生まれ育つ、活気に満ちたいいきいき都市、こういうものにもつながるし、それから元気に満ちたいいきいき米産地ですね、さらには世代がつながるいきいき安住都市、そしてまた世界をつなぐいきいき交流都市にもつながるのではないかなというふうに思っております。そして、人財いきいき都市でございまして、人財の育つ、そしてまた人財を育む、そういった活気あふれるバイタリティーに富んだ元気のあるいきいき都市というようなふうに解釈できるのではないかなということでございます。

そして、いきいきという言葉ですが、漢字で書くと生きるの生きとか、それから活気の活があるわけですが、平仮名のいきいき都市、いきいきでどうかなということで、私の意見でございます。

委員長（豊口 協）

ありがとうございました。新しい言葉が生まれてまいりました。なかなか迫力と説得力あるご説明をいただきました。いかがでしょうか。少しジェネレーションを下げて若者に大きな希望を与えるような言葉にしたかどうかということで、今まで出てきた言葉はどうも我々が昔習った漢詩のような感じがするということも言えるんじゃないかと思うんですが、確かに平仮名表現というのは、大和言葉につなが

るんだと思うんですけど。

ほかにございませんか。

はい、お願いいたします。

委員（高野徳義）

先ほど小国町の助役さんが言われたようにかたいと思うんですね。もっと平仮名が入った方がいいんじゃないかと思って、それで私は人は財、悠久の都市と、3番目と意味は同じようなわけでしょうけども、何か人財、漢字ばっかずらずらで、かたいんじゃないかなと思うんですがね。

委員（長谷川 孝）

よろしいですか。

委員長（豊口 協）

はい。

委員（長谷川 孝）

これは、ルビをふるんですか、どうですか。いわゆる後段の下から2番目、人はたからと、このルビをふるんですか。

委員長（豊口 協）

いや、これはもし委員会でふるようにということになればふるようになりますし、この委員会での提案になります。

委員（長谷川 孝）

そうしますと、後に続く言葉ですが、悠久の都市を悠久のまちとしてルビをふったら、もっとやわらかくなるんじゃないかと思います。そして、越路の助役さんのおっしゃったように、人は財、元気の出るとか、元気のまちというふうに余り漢字を並べないで、助詞を入れた方がよろしいのではと思います。

委員長（豊口 協）

都市にまちというルビをふるということですね。都市とまちというのは、また言葉のニュアンスというか、解釈が違ってくるような気もするんですけど。まちというと、あのまちこのまちというような感じになりますよね。

委員（長谷川 孝）

それが集まって都市になるんじゃないですか。

委員長（豊口 協）

そうです。ですから、都市というのは総合的にすべての機能を含んでいる集合体をいうわけですけども、何か八つが集まったよという感じがしないでもないです。

基本的に今二つのご意見がありまして、一つはやはり昔から意味を持っている言葉、漢字でもってピシッと決めた方がいいという提案と、それは余りにもかたいから、もう少しやわらかくして平仮名を使ったような、少し優しい漢字の語句にした方がいいと、こういうご提案、二つございます。今までの結

果の中で、投票でよかったのは人財悠久繁栄都市という言葉なんですけども、こういうものをもし砕いていくとすればどういうふうになりますかね。

統合ビジョンというのは、ピシッと幾つかの言葉で言い切った方がいいのか、それとも少し余韻を残した方がいいのかということにもなりますけど。例えばみんなでお互いに話すときに、新ながおかの統合ビジョンは何かであるというふうに一言で言い切って、なるほどと、こう思うのがいいのか、もう少しちょっと説明的な要素が入っている方が幅があっていいのかということにもなりますけど。もしここでご意見が出なければ、もう一回だけチャンスは許していただけたらと思うんですけども、いかがでしょうか。

はい、お願いします。

委員（村上雅紀）

別に何が正しい、間違いはないとは思いますが、ここにサブタイトルをつけるというわけにはいかないんですか。例えばオンリーワンを目指して悠久都市・新ながおかとか、そういう部分というのはいけないんでしょうか。例えば小さくサブタイトル、ちょこっと字をつけるという、それとも一言集約するんですか。

委員長（豊口 協）

どっちがいいかというのは、これまたご意見あると思うんですけど、統合ビジョンというのがぼんちあって、それ以外に我々が考えてきた四つの柱ございますね。ああいうものがサブタイトル的な要素でもって回りを埋めていくわけですから、その四つの要素をずっと見たときに、なるほどこれだと、その中心にはこれがあるんだと、要するに中心軸としてこれが存在する理由がはっきり見えてくるというのがいいと思うんです。中心軸が少しぼけて振れているんだとか、二、三本重なって見えるというのはやっぱりまずいだろうという気がします。これはどの言葉をとってみてもちゃんと意味があって、なかなかきれいな言葉だと思います。ただ、これをひとつ統合ビジョンということで明快な言葉として、我々は置かなきゃいけないもんですから、そこに難しさがあるんだろうと思いますけども。

そうしますと今、先ほど申し上げましたように、少しかたいなというご意見ともう少しやわらかくした方がいいんじゃないかなというご意見と、それと二つのご意見があると思うんです。はっきりとしていた方がいいと、ですから両方どっちにするかということについては、もう少し整理をしていきたいと思っておりますけども、いかがでしょうか。言い切った方がいいと思われる方、ちょっと手を挙げてください。まだ余裕がありますから、後で修正していただいてもいいですけど。スパッと言い切った方がいいと。例えば人財悠久繁栄都市、もうこれ以外ないよという、今改めてご意見ございましたけども、例えば人は財、悠久のまちというふうな一つの助詞を入れて少し含みを持たせるという。

はい。

委員（米持昭次）

私は、この後に新ながおかというのがつくわけですね。ですから、新ながおかというのが平仮名も

入っているということで、そうしますと人財悠久都市というのは語呂もいいかなという感じがします。

委員長（豊口 協）

ありがとうございました。再度ご推薦でございます。

それでは、今まで出していただいたご意見をもう一度事務局サイドと整理をさせていただいて、今日のご意見の中から、今日はかなりたくさん案が出ておりますけども、もう少し集約をして最終的に決めると。次の回は最終ですから、余裕がございません。そういうことで、ご意見がありましたら、事務局の方にご提示いただくということも結構だと思いますし、今日もう少し議論したいということであれば、続けてやってみたいと思います。事務局に整理をしていただいでよろしいですか。何となく無責任な感じもしないでもないんですけど。

委員（野田幹男）

私も特別これだというのはないんですけども、委員長が言われるように統合ビジョンというのはピシッと決めるかと、もう一点はやわらかく対応するかと、二つあるということなんですが、漢字の羅列というのは、今度は例えばそれはどういう意味なんですかと問われた場合、例えば一番上の人財悠久都市というのはどういう意味なんですか、あるいは人財悠久繁栄都市というのはどういう意味なんですかと問われた場合、なかなか解説にちょっと難しさがある。そこにいくと、人は財とか悠久の都市・新ながおかというのは、一般の皆さんから見ても親しめるといふかやわらかみがあると、そういうふうな解説抜きでも対応できるんじゃないかという2通りの事柄が考えられるんでありますけれども、私も絶対これがこうだというような立場じゃないわけでありまして、次回までの中で二者択一で、例えば多くの皆さんが親しむというか、やわらかみのあるものをとるか、解説付きでもバチッと決めた感じのものでやるかという、そこに結論がいくような感じがするんですが。特別こうだというのはございません。

委員長（豊口 協）

どなたか絶対これだと言って我を通されますと、それが歴史的に残るんですけども、どうですか。最終的には委員会の調整が必要ですけども。

はい、お願いいたします。

委員（外山康男）

前回人財悠久何々都市というのがいいんじゃないかと思って、前は発言させてもらいましたが、やはりやわらかさとなれば私は人の財、悠久の都市と、あるいは越路の助役さん言われましたように、人は財、いきいき都市というような、それでもってわかる方がいいんじゃないかなと、こう思います。

委員長（豊口 協）

ありがとうございました。特に決はとりませんが、今残っておりますのが人財悠久繁栄都市と人は財、悠久のまちといえますか、悠久の都市といえますか、これが残っているわけでございます。

委員（山本俊一）

さっき助役がおっしゃったいきいき都市も。

委員長（豊口 協）

それはもちろんこの中に入りますけども。人財いきいき都市という新しい提案もございました。

そうしますと、じゃ最後に整理いたします。人財悠久都市、これを人財悠久のまちというふうに置きかえたらどうかという案が一つ、それから人財悠久繁栄都市という漢字を並べたこの案が非常に重みがあってよろしいという案が一つ、それから人は財、悠久の都市、これを元気のまちというふうに置きかえることもできますけども、これが一つ。それが新しく人財いきいき都市というご提案を熊倉委員の方からいただいております。この四つを今日は残しまして、いよいよ最終段階に入るといふことにしたいと思っておりますけど、よろしいですか。

「はい」という声あり

委員長（豊口 協）

はい、ありがとうございました。

事務局ひとつよろしく申し上げます。

それでは、議題の2番目になりますが、新市地域らしさ価値の構築に向けた重点実現項目について、これは再度何度も議論をしていただいております。その委員の方々からのご意見をいただきながら一部修正をしております。今日は大体これで決めていこうというところまでになってきたと思っております。今日特にお諮りをしたいのは、一部修正をいたしておりますので、その点を事務局の方から説明をいただいて、またご意見をいただきたいと思います。よろしく申し上げます。

事務局（竹見）

それでは、事務局からご説明いたします。座って説明いたします。

お手元の資料ナンバー2、新市地域らしさ価値の構築に向けた重点実現項目をごらんください。前回まではいろいろご意見をこちらの方でいただいたわけなんですけども、今日ご意見を参考に修正をさせていただきます。

2の5ページをごらんください。まずその前に、前回のいろいろご意見いただいた中で見極めるとか発信するとか、育てるといふものは、それぞれが独立しているわけではございませんので、例えば発信して育てる、あるいは育てて発信するとか、それから見極めて発信する、この三つが相互に関係しているということをご承知願いたいと思っております。

それで、発信するというところで、子供という部分があった方がいいんじゃないかというご意見が出ました。そこで、一番下の育てるといふ部分で、こちらの子育てというのを、前回までまとめてあるんですけど、こちらの育てるといふところから子供を発信するということにも一つ区分をさせていただいて持ってきました。発信するというところで、下の方に重点実現項目、地球を想う「未来人」育成・発信地域の創出ということで整理させていただいておりますけども、下の育てるといふ、その差別化なんですけど、下の部分は子供をとにかく育てていこうと、地域の宝ということで、地域の環境そのものを

育てていくんだということで、育てるという部分から、今度上の発信するという部分につきましては、その育った子供そのものを発信していこうということです。副題に書いてございますように、子供の力・自立した活動を地域で全体で伸ばし、発信する地域づくりと、そして活動展開の一例といたしましては、子供たちの才能を早期に見出し、地域で伸ばす仕組みづくり、あるいは子供の豊かな才能や発想を社会に繁栄させるシステム推進ということです。そして、育てるの部分で、副題をちょっと変えさせていただきました。前は、子供たちの豊かな才能を発見し、みんなが育てるまちづくりだったんですけど、これをもっと地域の宝だということで、地域全体で育てていくんだということで、地域の宝、子供たちをみんなで育てるまちづくりという形で修正をさせていただいております。

それから、前回熟年力を熟年パワーにしたかどうかというご意見をいただいておりますけれども、今回重点実現項目の発信するという部分で、子供の力を発信していこうということで、子供の力に対して、また熟年力という形でそのままにさせていただいております。

以上です。

委員長（豊口 協）

ありがとうございました。いろいろとご意見いただいて整理してまいりましたけども、今課題として残されてきましたのは2の5の発信と育てるところでした。この前の会のときにいろいろとご意見をいただきまして、上下入れかえてみたらどうかというふうなご意見もありましたけども、いろいろ検討した結果、今事務局から整理をして提案をされたような形になっております。非常にわかりやすくなったと思いますが、いかがでしょうか。育てるに関しては、地域の宝、子供というふうにポイントを集約しておりまして、非常に明快に育てる目的がはっきりと見えてきたような気がします。発信するということは、いろいろ発信することが実はたくさんあると思いますけれども、その中で今日2項目に整理されておりますけども、高齢者の問題と、それから未来、地域をというか、未来の社会をつくり上げていく人材というふうに二つのポイントに絞っております。私個人的には非常にわかりやすくなってよかったなと思いますが、何かご意見ございませんか。よろしいですか。

「はい」という声あり

委員長（豊口 協）

はい、ありがとうございました。

それでは、第2議題でございます重点実現項目につきましては、こういって整理をしてまいりたいと思います。どうもありがとうございました。

今日一番ポイントになりますのが、次の3番目の地域別整備・活動方針ということで、これはワークショップの方々にもいろいろと整理をしていただいた内容を、さらに各地域ごとにその活動内容というか重点項目を整理していただいたものです。これに入りたいと思いますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

後ほどまたいろいろとご質問、ご意見をいただきたいと思ひますが、最初に事務局の方からご説明を

お願いいたします。

事務局（竹見）

続けてご説明いたします。

お手元のまず補足資料ということで、長岡地域新市将来構想自治体ワークショップについてという資料をごらんください。自治体ワークショップは各自治体から3名ずつ出ていただきまして、こちらの真ん中ほどに書いてございますように、経緯として第1回目を6月6日からスタートいたしまして、今まで8月1日まで7回開催いたしております。その開催ごとの主な経緯につきましては、右側の欄に書いてあるとおりでございます。最終的にみんなで一緒になって説得力ある、地域が納得できる構想づくりをつくっていきましょうということでスタートをしております。そして、地域の資源を探し出して、そして新市の地域らしさ価値、それぞれの地域らしさ価値が高まるようにどういうふうな形で地域が活動していったらいいかということを作業してまいりました。そして、ご自分の地域だけのことを言っているのではなくて、他市町村からも共感を得るということで、最終的に8月1日には各市町村から発表していただきまして、みんなで共有してきたという経緯がございます。本日はそのことについて、後で各市町村のワークショップのメンバーから発表をしていただきます。

続いて、資料ナンバーの3をごらんください。こちらは、新市地域らしさ価値を高めるための地域別整備・活動方針でございます。1ページ目をごらんください。こちらは、地域らしさ価値構築に向けた考え方です。流れといたしましては、今までの小委員会のご意見、あるいは先ほどご説明いたしました重点実現項目、そして本日ご報告いたします地域別整備・活動方針の流れが書いてございます。

2ページ目をごらんください。2ページ目から5ページ目までにつきましては、それぞれの地域らしさ価値の活動方針について、地域別の整備・活動方針についてまとめてあります。2ページ目が独創企業が生まれ育つ都市、そして3ページ目が元気に満ちた米産地、そして4ページ目が世代がつながる安住都市、そして5ページ目が世界をつなぐ和らぎ交流都市です。上の四角でくくった部分が地域別整備の活動方針です。下が実現すべき事柄という形で書いてございます。

続いて、6ページ目をごらんください。これらは、2ページから5ページまでのもととなる資料でございます。この資料を今までのワークショップで共同の作業で固めてきたものであります。この表の見方でございますけれども、まず一番左、地域資源でございます。こちらは、地域固有の資源で地域が誇りに思っていて、なおかつブランディング価値を高めるための地域資源です。それから、地域の強み・内容ですけれども、地域資源の強みあるいはいろんなことについて説明をしてあります。続いて、価値を高める理想・方向性でございますけれども、新市地域らしさ価値、いわゆるブランディング価値を高めるための地域の資源を生かす方向性であります。そして、その地域資源と、それから価値を高める理想・方向性から右上に書いてございますようにWILL、実現すべき事柄が導き出されております。これは、ブランディング価値を高めるための地域の活動の方向性でございます。そして、真ん中ほどに背景・環境と書いてございます。こちらは、実現すべき事柄を地域のアイデア、あるいは社会の求めら

れているものを、あるいはその地域で生かせる指針をこちらに掲載させていただいて、最終的には地域の夢という形で一番下に書いてございますように、地域別整備・活動方針が導かれております。

それでは、続いて各市町村からこちらの地域別整備方針につきましてご説明をお願いしたいと思います。資料の順でご説明をお願いいたします。

長岡市（森山）

それでは、長岡市の発表をさせていただきます。私、ワーキングメンバーの長岡市企画課の森山です。よろしく願いいたします。

それでは、資料6ページをごらんいただきたいと思います。長岡市全体といたしましては、長岡市単独の機能に加えまして、新長岡地域の母都市としての役割、機能等も、これ視野に入れながら整理、検討をさせていただきました。

では、独創企業が生まれ育つ都市から説明をさせていただきます。一番資料の左側、地域資源ということでございます。ものづくりの優位性ということで、高度な技術を有する多様な分野の企業がバランスよく集積、技術、デザインに関する特色ある大学、専門機関等が多数立地と四つの項目を挙げております。もう一つの資源といたしまして、その下の方になりますけれども、産業・生活スタイルの多様性、これにつきましては製造業だけでなく流通・販売・サービスなど多分野産業の集積がある等、三つの項目を挙げさせていただいております。これらの資源の強み、内容、その右でございますが、ものづくりの優位性に関しましてはものづくりに関する技術がワンセットで提供できる集積地である。日本有数のハイテク産地である。世界的な技術を有する企業も多く、国内外への情報発信力を持つ。実践力のある専門人材の育成が可能等の強みを持っております。さらに、産業・生活スタイルの多様性につきましては、独創的な発想の源で、新たな起業を創造するための市場形成といった強みを持っております。さらに、これらを統合しまして、価値を高める理想・方向性につきましてはごらんいただくことにいたしまして、右のWILLの方、実現すべき事柄ですが、ものづくりの確かな技術と人、モノ、情報の集積を強化し、世界に広がる夢を現実に変える都市（空間、機能、仕組み）の創造という形に整理をさせていただきました。この背景・環境といたしましては、30万人の人間パワーであるとか伝統の創造力、こういったものがその背景にございます。これらを踏まえまして、一番右の下になります。地域の夢といたしまして、世界のモデルとなる独創企業生育拠点への挑戦という形の表現に整理をいたしました。

続きまして、7ページをごらんいただきたいと思います。元気に満ちた米産地の分野ですが、地域資源といたしまして、生産と加工技術の発信、これは農業総合研究所等研究機関が多数出ている等の三つの項目を挙げております。その下の方の太い字ですが、市場開拓力、販売力ということで、多様な飲食施設等背景に一大消費地である。さらに、長岡野菜等の項目をあげております。一番下のところで、県内外の来訪者の拠点ということで、多くの方が長岡を訪れ、滞在する結節点となっているという資源でございます。右の方にいきまして、生産と加工の強みでございますけれども、全国レベルの研究所と指導者育成機関が立地している。伝統的な食技術が継承されている。コシヒカリ等のもとで、農産物の安

定した供給量を誇っているというのをあげております。市場開拓の方では、申し上げましたように、多様な消費を可能とするいろんな施設がここに集まっているということです。県内外の来訪者の拠点に関しましては、食の情報発信が可能になっているということです。価値を高める理想・方向性についてはごらんいただくことにしまして、これらを踏まえて実現すべき事柄、WILL、右の上ですが、たゆまぬ研究と歴史に支えられた生産から消費、市場拡大まで、日本を元気にするあらゆる食の先進モデル地域としての展開を強化ということに集約させていただきました。その下の背景としては、安全・安心・おいしい食への需要の増加、口コミにより広がる食産業等があげられます。これらを踏まえて、右の下、地域の夢でございますが、日本の食文化の誇りを育て、伝統を生かした「新ながおかブランド」の食の拠点として全国へ展開という形にまとめさせていただきました。

引き続きまして、8ページの方、世代がつながる安住都市でございます。これに関し地域資源につきましては、市民力、過去2度の戦災を乗り越え、復興をなし遂げてきた市民力をあげさせていただきます。もう一つのその下の方のところでは、基本的な都市機能の充実ということで、医療、教育、商業、また子育て、男女共同参画といったような資源をあげさせていただきます。これらの資源の強みということで、市民力に関しましては市民の自立と新市の精神がまちづくりで実践されている。その下の基本的な都市機能の方につきましては、こうした機能の充実により快適な日常生活と多様な分野の活動、市民活動も含めて、が行える基盤があるという形にまとめております。これらを踏まえて、右方のWILL、実現すべき事柄ですが、歴史と伝統に育まれた市民力を生かした、あらゆる世代の想いや願いが叶う、新しい都市・生活環境の創造という形にまとめさせていただきました。その下の背景・環境につきましては、価値観やライフスタイルの多様化、住民主導によるまちづくり等がございます。これを踏まえて、地域の夢、右の下でございますが、「市民が想う、まちが動く」、市民とまちが一体化する安住都市への歩みという表現に整理をいたしました。

続きまして、9ページ、最後でございますが、世界をつなぐ和らぎ交流都市でございます。地域資源といたしまして、交通の要衝・拠点である。国際交流の実績がある。一番下ですが、交流資源と受け入れ機能がある。多様な観光資源、四季折々のまつりがある等に整理をいたしました。これらの強みといたしまして、交通の要衝につきましては、県内外への窓口となっている。国際交流につきましては、幅広い国際交流の歴史と実績があるということで、姉妹都市交流を通じまして約3,700名の人たちを受け入れしたり現地に行ったりの交流をしております。さらに、世界から学ぶ留学生は今280人ほどおりまして、小中学校の派遣、ゲストティーチャーとして派遣したりして活用しております。さらに、資源受け入れ機能のところでは年間を通じて来訪者があり、それを受け入れる機能もあるという形に整理をしております。これらを踏まえて実現すべき事柄、WILLの方では世界をもてなす和らぎの心を育み、新たな交流の価値を発信する拠点となるという形に整理をしております。背景・環境といたしまして、世界都市新ながおかを目指す、都市ブランドの価値を高めることが必要になる等がございます。これらを踏まえて、地域の夢といたしまして、地域と世界を和らぎで結び、人々の心の中に残り続ける世界都市への

挑戦という形に整理をさせていただきました。

最後になりますが、このワークショップに参加させていただきまして、地域のすばらしい資源、きらりと光る資源が非常に数多く多様性のあるものがあることを認識することができました。ワークショップ8市町村のメンバーがこうした地域資源の価値を共有できたということは大変大きな成果であると考えています。新ながおかにおきまして、こういった地域資源をうまく連携させてさらに価値を高める方向で進めていきたいと考えております。

以上です。

委員長（豊口 協）

どうもありがとうございました。

それでは、続きましてお願いいたします。

見附市（野水）

見附市の企画調整課、野水と申します。

10ページをごらんいただきたいと思います。まず、独創企業が生まれ育つ都市でございます。地域資源でありますけれども、繊維産業、それから県営産業団地、見附工業団地などがございます。資源の強みでありますけれども、まず繊維産業につきましては製造工程が地域内でパッケージ化されておりまして、独自商品の新規開発、それから設備、人材の両面でそれが可能であるということです。それから、県営産業団地につきましては、新潟県の中心部にありまして、非常に交通の便がいいということ、それから立地条件がいいということがあげられます。それから導き出されるものといまして、実現すべき事項でありますけれども、ファッション産業による豊富な技術と他分野の産業、研究機関を生かした産学官連携による新ビジネス開発拠点地域となるということです。それから、地域別整備・活動方針でございますけれども、高度技術・高感性をもつ人材による多様な産業の花が咲くまちの創造ということでまとめております。

続きまして、11ページでございます。元気に満ちた米産地です。まず、地域資源でございますけれども、安心安全な農産物の生産と環境整備、それから「食」による健康づくり地域ということをおげしております。資源の強みでございますけれども、まず上段になりますけれども、地域内での高品質かつ安定的な農産物の供給が可能であるということ。それから、下段の食の方になりますけれども、健康づくりの観点から食生活の改善を通じて、有機食材の消費拡大・地産地消の推進ができるということです。この強みを生かしまして、実現すべき事項でございますけれども、「食」「生産」「人材」「消費者の食の安全性」の視点を生かした健康農業地域づくり、これを目指します。次ですね、地域別整備・活動方針でございますけれども、健康に満ち溢れた農産地の創造ということをもとめております。

続きまして、12ページでございます。世代がつながる安住都市、まず地域資源でございますけれども、いきいき健康づくり推進、それから医療・福祉の里、それからわくわく見附アクションプランなどがございます。資源の強みでございますけれども、まずいきいき健康づくりにつきましては、寝たきりの防止

のために体力づくり行っておりますけれども、そういったものが資源の強みとしてあります。それから、医療・福祉の里でございますけれども、施設が集約化されておまして、利便性が非常に高く、世代間交流が可能な配置となっているということが強みであります。それから、わくわく見附アクションプランでございますけれども、子供たちの自主性を尊重するプログラムの実施ということです。これから導き出されます実現すべき事項でございますけれども、元気なお年寄りが若者とともに生き生きと暮らせる地域の創造、それからお年寄りの経験が伝承できるまちの創造ということです。地域別整備・活動方針でございますけれども、健康長寿日本一への挑戦と世代間交流先進地域の創造ということでまとめました。

続きまして、13ページでございます。世界をつなぐ和らぎ交流都市でございます。まず、地域資源でございますけれども、新潟県の重心地ということでありまして。それから、中之島・見附インターチェンジ、高速道のインターチェンジがあるということ、それから国際交流の分野でありますけれども、早稲田・オレゴンプログラムの実施と、それからニットまつり、それから大風合戦などがあげられます。まず、資源の強みの方なんですけれども、県の重心地ということで、県内偏りなく、どこからでも集まってこれる場所であるということです。それから、インターチェンジでございますので、交通の利便が非常に高いと。それから、ニットまつりなんですけれども、毎年県内外からお客を集めておまして、非常に人気の高いイベントです。これも春秋1回ずつしかやらないわけなんですけれども、常設でやっていただきたいという声が非常に多く寄せられております。それから、大風合戦なんですけれども、日本中の風仲間が集まる祭りです。越後六角会という名称の団体があるんですけれども、ヨーロッパなどに出まして、向こうの海外の風仲間と交流するようなこともあるようであります。これから導き出されます実現すべき事項でございますけれども、他地域の資源と連携した広域観光ネットワークと、それからこれまでの交流実績を活用した和らぎ交流の実践地域ということです。それから、地域別整備・活動方針でございますけれども、「新ながおか・北の玄関口」として産業と伝統の環で結ぶ交流拠点の創造というふうにまとめました。

以上でございます。

委員長（豊口 協）

どうもありがとうございました。

続いて栃尾市お願いいたします。

栃尾市（飯浜）

栃尾市企画財政課の飯浜です。よろしくお願いたします。

基本的には、八つの個性の和が、そして連携が新市の発展の源であろうというふうに考えております。

さて、栃尾市というまちと皆さんイメージされるのが、第1にはジャンボあぶらあげ、それに名峰守門岳、それらに抱かれまして大自然、そのほか平安のいにしえからの歴史を非常に大切にしております。

では、これら四つの項目に従いまして順に説明させていただきます。

14ページをごらんください。まず、独創企業が生まれ育つ都市ということであります。地域資源の一つ目としまして、繊維産業と熟練技術をあげさせていただきました。平安以前に朝廷から守門岳の山繭を使った織物の技術を伝授されたところから始まります。江戸時代に入りまして、植村角左衛門の手により栃尾紬として大成してまいりました。それが戦後合成繊維の産地として発展し、栃尾市を支えてきたわけでございます。確かに現在は低迷を続けておりますが、このたび県のアクションプランの導入によりまして、新しい展開を進めようとしております。二つ目のきれいな水と澄んだ空気、まさしくそのものですけれども、近年自然豊かで静かな環境を求める企業も何社か入ってきております。三つ目には、これら繊維技術の習得場もあります。栃尾高校総合学科でも引き続き繊維関連カリキュラムが用意されております。これらのことから、実現すべき事柄としまして、繊維工業技術の幅広い活用ときれいな水と空気を生かした新世代産業の創出地となるとしております。そして、活動方針案としましては、繊維産業を核とし、素材からこだわる多分野の栃尾ブランドづくりとさせていただきます。

では、続いて15ページをごらんください。元気に満ちた米産地です。米は、8市町村ともに共通でございます。その中で栃尾の特徴としてあげさせていただきました。まず、物語のある特産品、あぶらげでございます。300年の歴史と、そしてうまさを誇っております。そのほか、もちと書いてありますが、究極の味のもちでございます。標高600メートル以上にしか育たないと言われている梅三郎、そのほかのものもございます。そしてあと、源流が育む産物として、源流でそのままのイメージでございます名水、そして名水に育てられた米、同じく酒通好みの日本酒が2社ということでございます。そして、栃尾はあぶらげ、豆腐の産地でございますので、おからが大変出ます。それらを使いまして有機肥料づくりを展開しております。これらのことから、実現すべき事柄として自然を生かした新たな「食」をつくり上げる地域となる。そして、活動方針案としまして、自然に培われた確かな素材による『新ながおか名物』を生み発信するとしました。このことは、後ほど申し上げます交流や観光によって必ず経済効果が生まれてくるものと考えております。

続きまして、16ページをごらんください。世代がつながる安住都市、地域資源は雁木のまち並みと雄大な自然、日本で3番目、長岡に次いでいるわけですがけれども、栃尾の雁木は私有地を提供することによって冬場の交通を確保したり、そしてまた地域コミュニティの場として活用しております。それらの優しい心ということがございます。あとそれから、文句のない雄大な自然ということであります。そしてあと、教育と町内コミュニティ、特に総合学習への取り組みが大変盛んであります。それらに対して地域の人たちが大変な協力を見せております。そのほか栃尾といえば剣道と柔道が大変盛んであります。それら武道やスポーツ、芸術文化を大人たちが子供に伝える地域性があります。そしてあと、住民の強いつながりとさせていただきます。これら84の町内があるわけですがけれども、それらの区長制度によって培われてきた地域住民の一体感があります。これらのことから、実現すべき事柄として、まつりや交流を通じた地域コミュニティを守り続け、伝統、文化、人情を大切に思う未来人を育てるとしました。そして、活動方針案としましては、まつりや雁木の心と文武両道の精神をつなぎ、元気でやさしい人を

育む地域とさせていただきます。

では、続いて17ページをごらんください。世界をつなぐ和らぎ交流都市、ここに栃尾市の特徴を、一番ポイントを置いて考えてまいりました。栃尾市は国道290号、351号の交差点、そして福島に通ずる289号への連結として大変な魅力がございます。これらのことから、豊富な観光資源として道の駅、謙信の里、道院高原、杜々の森、守門岳、まつり・イベントが本当にたくさんあります。自然、歴史、文化に特化した観光資源、固有のまつりが集積しており、幅広い層にアピールできる伝統的観光地としての発展が可能というふうに考えております。また、これらを支える住民のネットワークがしっかりできております。また、こういった人たちが集まる場所、交流の拠点としては、8市町村の中に唯一道の駅がございます。あとそれから、交流拠点となる大きな施設も用意してございます。そして、これらは皆さんの努力の成果で最近やっと観光産業の芽として、炭工房・竹細工・特産品づくり等の新たな魅力が発生しております。起業化が少しずつ進んでおります。これらのことから、実現すべき事柄として固有の資源と住民ネットワークを活用した新ながおかの観光交流拠点となる。そして、活動方針案として、「来て・観て・食べて」楽しいテーマ型観光の拠点を育てるとさせていただきます。これらの成功のためには、8市町村の連携による広域観光に大きな期待を寄せているところであります。

以上です。ありがとうございました。

委員長（豊口 協）

どうもありがとうございました。

それでは、続きまして中之島町お願いいたします。

中之島町（小野）

中之島町企画課小野といたします、よろしく申し上げます。

では、18ページをごらんください。独創企業が生まれ育つ都市ということで、私どもの町の資源といったしましては、交通に恵まれた立地環境ということで、高速道のインターチェンジと国道8号バイパスが直結をしておることが一番大きな特徴かなということでございます。よって、交通の拠点性が非常に高いということがありますし、利用車両数も新潟西、長岡に次いで県内3番目の利用台数が多いという特徴を持ってございます。そのすぐれた高速道路のインターチェンジに隣接をしている流通団地ということも非常に特徴があるということで、今現在ではロジスティックセンター、コンピューター管理による倉庫群というものなのですが、それによって企業の集約メリットが非常に大きいものとなっております。次の若いまちという部分なのですが、うちのまちにつきましては平均年齢が41.7歳と非常に八つの中でも一番若いということです。そして、その中でも特に14歳未満の年少人口が県内4番目と、16.5%と高いということも大きな特徴になってございます。それと、マナビープラザの関係なのですが、これにつきましては図書館併設型の文化施設ということで、文化ホール、図書館、展示室、会議室等を併設をしておるということで、中でも図書館につきましては3万冊の蔵書がございまして、年間1人2.4冊という貸し出し冊数があるということで、県内でも多い方だということになってござ

います。それらに基づきまして、実現すべき事柄といたしまして、抜群の流通機能と豊かな生活環境から生まれる豊富な労働力を活かし、生育する新産業等の独創企業を支える地域づくりを行うということにさせていただきました。地域の夢といたしましては、抜群の広域アクセス性・立地環境を活用した独創企業支援地域とさせていただきました。

次です。19ページをごらんください。元気に満ちた米産地でございますが、地域資源としましては大口れんこんということで、100町歩の作付があって、切り口が白くてサクツとして、いい歯触りだということで、全国的にブランドとなっております。それと、とれたて市という形で表現してございますが、農村婦人グループによります産直販売所という形でございますが、非常に人気が高くて開店と同時に品切れ状態になるという状態が続いてございます。それと、うちのシンボルといたしますか、ジャンボおにぎりということで、600キロでつくる大きなおにぎりということで、これについては米産地の象徴なのかなということでございます。次に、大区画ほ場の関係なんです、今1ヘクタール区画ほ場整備を現在進行中でございます。それを生かしました生産組織をやっているということでございます。あと独創企業の中で申し上げましたように、交通利便性が非常にいいので、素早い出荷対応ができるという部分も強みになると思います。地域の人間性という形で表現してございますが、昭和23年、終戦直後の食糧難の時代ですが、超過供出米日本一ということで、住民性が非常にわかると、他人を思いやる住民心があるということで、これらをつ結びつけまして実現すべき事柄といたしまして、地域づくりに積極的に取り組む住民力、括弧でかあちゃんパワーと表現しておりますが、による安全・安心・新鮮な農産物の供給基地ということで、地域の夢といたしますか、若く元気な住民パワーによる安全・安心・美しい食産基地という形にさせていただきました。

次、20ページでございます。世代がつながる安住都市です。資源としまして、世帯員数が多いということで、私どもの町につきましては平均4.16人の家族構成となっております、3世代同居型の構成が多いのかなということでございます。それと、保育所と高齢者交流施設ということで表現してございますが、保育所と老人憩いの家等の併設によりまして、異年代交流といたしますか、が非常に盛んに行われております。住民力につきましては、農商工の生産者と消費者が一体となりまして、道路脇に花を植える運動等によります農村アメニティーの創造にも努めておるということでございます。それと、もう一つが学校田の関係ですが、これにつきましても地域ボランティア、農家の方のボランティアによって各学校で行われておるということでございます。これらから実現すべき事柄といたしまして、家族・地域の人のつながりを大切にしながら更なる安らぎ住まいと子どもを育む地域づくりを推進とまとめさせていただきます。地域別整備・活動方針でございますが、家族・地域が一体となって、子育てを応援する安心のまちということにさせていただきました。

21ページです。世界をつなぐ和らぎ交流都市の関係ですが、地域資源といたしましては大竹貫一、義民与茂七さんというような偉大な先人たちが多いというものでございます。夙合戦、見附市さんとやっているんですが、夙合戦、引き継いだ歴史という部分でございます。食の交流といたしましては、大口

れんこんあるいはジャンボおにぎりを通じまして、新たな観光資源が開発できないのかなということを考えてございます。当然交流の部分ですので、高速道とインターチェンジという形で交通利便性が高いというのも特徴になってございます。まつりという表現にしておりますが、これにつきましては各集落の春のまつり、秋のまつり、それぞれ伝統を守ったものでございますので、これらも観光資源の一つということでございます。それと、もう一つ観光資源であげておりましたのが稲島稲荷ということで、商売繁盛の神様ということで、7軒の住民の方々が守っておるということで、古くから稲島講という形で信仰されておるというものでございます。これらの資源を活用いたしまして、実現すべき事柄といたしまして、交通利便性を活用し、他地域の観光資源との連携化を図り、広域交流の一翼を担う地域づくりという形でまとめさせていただきました。地域別整備・活動方針につきましては、新ながおかをつなぐ広域交流発信地域の形成という形にさせていただきました。

以上です。ありがとうございました。

委員長（豊口 協）

どうもありがとうございました。

それでは、続きまして越路町の方お願いいたします。

越路町（郷）

越路町総務課の郷と申します。よろしくお願ひいたします。

それでは、22ページをごらんください。まず、独創企業が生まれ育つ都市、越路町には米菓、酒造、スポーツ用品製造など国内一流製造業が立地しています。この三つは、いずれも越路で生まれ育った企業であり、特に米菓と酒は米と水などを原料としており、自然環境と深いかわりがあります。これらのことから、価値を高める方向性として環境と共生する産業のさまざまなあり方の模索が考えられます。

もう一つの地域資源は、国内最大級の埋蔵量があると言われている天然ガスのガス田です。天然ガスは石油に比べてクリーンなエネルギーであり、将来的には天然ガス自動車の普及などの社会変化やエネルギー産業の立地の可能性も考えられます。これらのことから、実現すべき事柄は、自然環境に育まれる地場産業の振興・支援、天然ガスを利用したクリーンエネルギー産業の創出・育成です。また、エネルギーのあり方や環境との共生は重要課題であり、地域別整備・活動方針案は豊かな自然環境がつくる21世紀のクリーンエネルギーに育まれるまちの創造としました。

続きまして、23ページの元気に満ちた米産地です。地域資源としては、こだわりの生産技術があります。有機堆肥や減農薬減化学肥料栽培はもちろん、人工衛星を使った食味調査や単位収量の抑制によるおいしい米づくりなど、ニーズに合った高付加価値の売れる米の生産を目指して、他に先駆けて新しい栽培技術に取り組んできました。また、農業生産組織の先進性や地域に合った生産体制の確立、安心を支える環境などもあげられます。これらのことから、実現すべき事柄としては、安心、安全、おいしい米生産の追求に向けた新しい栽培技術導入への挑戦、安心な米生産と環境一体化の模索です。そして、地域別整備・活動方針案は最先端技術と確かな技が生み出す元気のあふれる米生産・技術導入拠点の創

造としました。

続いて、24ページの世代がつながる安住都市です。地域資源としては、自然環境、充実した福祉施設、整備済みの生活インフラや交通の利便性などがあり、特に福祉施設では高齢者だけでなく、身体、知的、精神障害者の施設も数多く整備されており、知的障害者が地域の中で普通に生活するためのグループホームは県内で最も多く、入居者は地域の行事に参加するなど、地域が温かく見守っています。また、未来人を育むという意味では、中学1年生の希望者全員をサイパンに連れていく中学生海外派遣事業も資源としてあげました。これらの資源をもとに、価値を高める理想、方向性としては、あらゆる人々が尊重される社会の実現による人材育成、人間教育の重要性、そして健常者も障害者も同じように生活するという意味のノーマライゼーションのさらなるチャレンジングが考えられます。これらのことから、実現すべき事柄は心豊かな子供を育て、すべての人々が支えあう地域の創造と発信としました。そして、地域別整備・活動方針案は豊かな自然環境に育まれた個性尊重による人づくり地域の形成と発信です。

続きまして、25ページの世界をつなぐ和らぎ交流都市です。地域資源としては、重要文化財の長谷川邸、国民的歌手で顕彰碑もある三波春夫さん、宝徳山稻荷大社、もみじ園、全国的に有名な酒、ホテル、学術的に非常に価値があると言われている渋海川の向斜軸や昔マンモスの足跡など地球の歴史、それから各集落で行われている田舎の伝統行事など数多く資源があります。これらの資源を生かすには、他地域との連携活用と情報発信が考えられます。実現すべき事柄は、他地域の観光資源との連携化を図り、広域交流の一翼を担う地域づくり、そして地域別整備・活動方針（案）は自然と歴史の広域交流をつなぐ地域の形成としました。

以上です。

委員長（豊口 協）

どうもありがとうございました。

では、続きまして三島町お願いいたします。

三島町（河内）

三島町の河内と申します。よろしく申し上げます。

26ページをごらんください。まず最初に、独創企業についてであります。三島町の企業は酒造業に代表される伝統産業と農村工業導入団地での半導体、電子部品などの先端産業、この二つに大別されます。今回の自治体ワークショップの中で伝統産業をより特化させる方向になりました。地域資源といたしましては、西山丘陵のおいしい水と米を原料とした酒やみそ、そうめんなどの食品、それから世界の名産品として紹介された手引き鋸などがあります。また、江戸時代から連綿と受け継がれてきた、確かな技を持つ職人のまちであるということです。最近では、和創良酒の会というNPOなんですけども、こうした地場産業と地域内外の人々のネットワークづくりが育っているということでもあります。こうした強みを生かしまして、WILLとしましてはものづくりへの誠実さ、確かさ、粘り強さを維持・発信する地域とし、活動方針は確かな伝統の技で信頼・支持されるモノづくり発信地といたしました。

次のページをごらんください。元気に満ちた米産地であります。三島町は大規模ほ場が整備された平場というものと、西山丘陵に位置する中山間地の二つの地域に大別されます。地域資源といたしましては、平場地区では1区画が50アールから2ヘクタールの大規模ほ場が整備され、また県内でもトップレベルの担い手集積率を誇っております。その中で、コシヒカリを中心とした低コスト、高品質米の生産に取り組んでおります。また、最近では学校給食等に地元産のコシヒカリや食材を使うなど地産地消の取り組みも積極的に行っております。こうした強みを生かしまして、WILLといたしましては高付加価値な農産物づくりを実践し、新ながおかの先進的な取り組みを広げ、産業化していく地域とし、活動方針は「人と自然」の元気を生かした環境循環型農業の拡大地域といたしました。この方針のもとには、やはり安心、安全な米づくりの基本は土づくりであるということを考えております。そうした土づくりに対する先進的な取り組みを三島の地域でも広げ、新市のブランドづくりの一翼を担いたいという考え方であります。

次のページをごらんください。次に、安住都市についてでございます。四つの地域らしさ価値の中でも、この安住都市については最も三島らしさであると思っております。特に世代がつながるといふ点においても、三島町の目指すところであります。地域資源といたしましては、子供の教育や地域福祉などに対する住民の熱意や活動が活発であるということ、地域コミュニティや世代間交流など、いわゆる地域力があるということであります。また、里山や田園風景など豊かな自然が身近にあり、アクセスのよさ、安価で優良な宅地、学校、病院、福祉施設が整備されていることなどから、安心、安全、快適さが実感できるまちであるということであります。こうした強みを生かしまして、WILLといたしましては自然と人、人と人が融合し、地域力を生かしたコミュニティ育成モデル地域とし、活動方針は自然空間を生かし、地域コミュニティを育む生涯ゆとり実感都市といたしました。三島地域は単なる居住地ではなく、人と人とのコミュニケーション、自然と共存できる豊かさを実感できる地域にしていきたいというふうに考えております。

最後に、交流都市です。29ページになります。三島町には8市町村の中でもちょっと変わったイベントがあります。それは、西山連峰の自然を生かした登山マラソン大会とか伝統の鋸と町の木である杉を生かした全日本丸太早切り選手権大会があります。そして、まちづくり団体やスポーツ、文化団体も元気いっぱいということで、交流が好きなまちでもあります。そんなことから、WILLといたしましては住民力を生かした交流人材育成地域とし、新市での交流人材を積極的に育成していく地域の役割を果たしたいと考えております。活動方針は、アイデアと人の和でつくる新ながおかの独創イベント発信地として頑張っていきたいと考えました。

蛇足なんですけども、現在の町の総合計画の将来像なんですけども、「人の和で未来につなぐまちづくり、人が人を育て、人がまちをつくる」というキャッチフレーズなんですけども、基本的にはその方針を変えないで四つの地域別整備・活動方針の中で人というものを柱にして新市における地域の役割を果たしていきたいというふうに考えております。

以上です。

委員長（豊口 協）

どうもありがとうございました。

それでは、山古志村さんお願いいたします。

山古志村（斎藤）

山古志村総務課の斎藤です。よろしくお願いいたします。

我々この地域別整備・活動方針を検討するに当たりまして、期待される都市機能が整備された長岡市を中心とし新市が構成されたとき、山古志地域はどのような役割を果たし、それから同時にこの地域を発展させていくにはどうしたらよいだろうかというようなことを観点に考えていきました。4項目、各項目に共通して言えることなのですが、私たちのところの厳しく優しい自然の中で育まれた独特の山村文化をすべての人々に共有してもらおうことをねらいとして検討いたしました。

それでは、最初の独創企業が生まれ育つ都市のところで、地域資源としまして地域の独創を象徴する産物錦鯉、それから山の頂まで耕した棚田の景観美と相まった天水田、自然乾燥コシヒカリ、それから不屈の精神が生み出した手掘り中山隧道というのを地域資源にあげさせていただきました。これら山古志村独自の独創的な精神に触れる場として、圧倒的な自然を通していろんな分野にこだわらない独創企業人の育成を支援していく地でありたいということで、WILLとしまして新ながおかのものづくりに対する“独創性”を歴史・伝統で裏付け、自然環境を活用し支援する地域になりたいと。それから、地域別整備・活動方針として、自然美、人間美から生まれる究極ブランドを守り、育て、独創企業に提供していく地域といたしました。

次に、元気に満ちた米産地であります。地域資源は、先ほど申しました天水田、自然乾燥コシヒカリ、あるいは今売り出し中のかぐら南ばん等をあげてみました。価値を高める理想・方向性のところがありますが、耕作地の100%が棚田ということでもあります。こだわりの食を発信する地域でありたいということです。WILLとしまして、伝統の食づくりを守り続け、人々に感動を与える地域イメージ発信地となるということでもあります。地域イメージとは何だかといいますのは、棚田米だけでなく、山古志ブランドとして生活文化含めすべての面で発信をしていきたいというねらいもあります。地域別整備・活動方針といたしまして、自然に抱かれた技と人の汗が創り出す、安心安全食の体験地域（来て、見て、食べて）ということで方針を決めていきました。

次に、世代がつながる安住都市であります。ここでも自然景観、地域資源といたしまして、特徴ある自然景観、棚田、それからその棚田、棚池で生きております都会では見られない生き物、水性動物ですが、クロメダカ・タガメ・ゲンゴロウなどが生きていだろうということでもあります。それから、角突きや賽の神を中心としました固有の生活行事があるということです。実現すべき事項といたしまして、生活から生まれた圧倒的な自然と燃え上がる体験を通して、未来人の感性を育む地域としたいということでもあります。地域別整備・活動方針といたしまして、未来人を育む地域全体フィールドミュージアム

の創出ということであります。ここの副題に、最初未来人を育むフィールドミュージアムというのが出てきたんですが、わかりにくいということでカットされましたので、私どものところでフィールドミュージアムというのを使わせていただきました。よろしくお願いいたします。

最後になりますが、世界をつなぐ和らぎ交流都市ということで、地域資源といたしましては学生を中心とした体験交流、あとお酒の好きな方が自分たちで米づくりをしてお酒をつくって飲もうという一石会、それから錦鯉の放流等による交流、それから牛の角突き、棚田、最後に村の人々という豪雪地で住み続ける粘り強く、素朴な人々ということで、地域資源をあげさせていただきました。実現すべき事柄といたしましては、都会の生活では触れることのできない原風景や文化、伝統を伝える地域となると、地域別活動方針として、何度でも来たくなる“こころ”和らぐ資源特別区と結びました。

以上であります。

委員長（豊口 協）

どうもありがとうございました。

それでは、最後になりましたが、小国町お願いいたします。

小国町（牧野）

小国町の牧野と申します。よろしくお願いいたします。

小国町は34ページからでございますが、全体を通して申しますと4本の柱いずれもキーワードは里でございます。なぜ里かと申しますと、小国の盆地からくる里のイメージ、それからふるさとからくる里のイメージでございます。小国町に帰ってくる人あるいは小国を訪ねる人たちがほっとする場所、心も体もいやされる、そんなところが30万都市の中にあってもいいのではないかとということで、小国らしさの里にこだわりを持ったわけでございます。この四つにすべてに共通するのが、グリーンツーリズムの精神でございます。

それでは、まず最初に、独創企業の生まれる都市でございます。ここで小国の資源は、小国和紙と小国ログにいたしました。この強みは、本物の技術を強みとしたわけでございます。長い伝統の技術の中からは温かみのある、またやわらかみのある作品がつくられるということであります。特に小国和紙につきましては、独特の雪を巧みに使った技法であるということで、ここでは技術が強みであるというふうにしたわけでございます。さらに、この技術にこだわることで、独創的な企業の生育が可能な地域であるということをPRしていったということであります。実現すべき事柄でありますが、小国和紙等の伝統技術や独自技術の継承および発信により、後世に残るものを生み出す技術へのこだわりを誇りを持ち、高付加価値化を実現するということであります。活動方針といたしましては、伝統技術の継承と独自技術を生かしたこだわりの里づくりであります。

続きまして、35ページ、元気に満ちた米産地でございます。ここでは三つの農産物とグリーンリースほ場を資源といたしました。農産物につきましては、盆地独特の気候から生まれるおいしさであります。

八石米を例にとりますと、今小国町ではコシヒカリ専用の土づくりを目指しております。春、秋それぞれ専用の有機肥料を使った減減栽培であります。土づくりからおいしい米づくりということで、活動を行っております。それから、グリーンリースでございますが、これは貸し農地制度であります。生産者の顔が見える安心の食の提供はもとより、農業を体験することから新たな発見を提供したいということで、今農業体験のみならず、新たに農業を体感してもらうことを目指しております。新たな発見の中から農業に対する理解も深まっていくのではないかとこのように考えております。実現すべき事柄であります。おいしくて特徴のある食の生産・発信地としての発展であります。活動方針としましては、安全で味にこだわる食の里づくりでございます。

次に、36ページの世代がつながる安住都市でございます。ここの資源は、二つのコミュニティを資源といたしました。一つが地域づくりコミュニティであります。もう一つが福祉コミュニティであります。いずれもここの中心はボランティア活動が中心となっております。地域づくりコミュニティにつきましては、それぞれの集落が自分たちの考えで自分たちの生活環境をつくり上げるといふ、まさしくコミュニティの原点であります自分たちで考えて自分たちから行動を起こすという活動であります。もう一つを福祉コミュニティというふうにとらえたわけではあります。ここでは医療を含めた活動を福祉コミュニティということにとらえたわけではあります。ここでは、やはり福祉ボランティアの活動が中心であります。地域の人たちで地域の人を支えるということが中心になっております。支えられる人、それから支える人もその活動の中で生きがいを持っているということで、考えてみると支える人も人々から支えられているということに行き着くわけではあります。そんなことで、実現すべき事柄としましては、日常的な支え合いや世代間交流を通じて、生活の中で自らが考え行動する未来人を育むということで、活動方針としましては元気で支え合う気持ちを育み全ての人にやさしい里づくりとしたわけではあります。

次に、世界をつなぐ和らぎ交流都市であります。ここは、グリーンツーリズムによります農村と都市との交流活動であります。都市との交流では、武蔵野市との友好都市を結んでおります。年間を通じて市民レベルの交流が盛んに行われているということではあります。それから、もう一つが町をあげてもてなす、へんなかツーリズム事業の取り組みであります。これは、地元の資源を有効に生かすということが基本であります。したがって、地元のものや人があくまでも中心であります。資源としては、最大の資源であります緑豊かな自然、それからいろんな長期滞在ができる体験施設があるということではあります。これらの施設を連携させることによって、魅力の向上につながるのではないかとこのように考えております。実現すべき事柄としましては、地域でもてなす体験型交流の創造と展開の実現であります。活動方針としましては、へんなかツーリズムによるもてなしの里づくりであります。

以上でございます。

委員長（豊口 協）

どうもありがとうございました。

ちょっと申しわけない、なじょらいというのは何ですか、なじょらい市と書いてありますね。

小国町（牧野）

なじょらいというのは、小国の方言なんでしょうか、いかがですかとかそういう意味があり、朝市で
ございます。

委員長（豊口 協）

ありがとうございました。

32ページにわたります自治体のワークショップの方々によりますまとめられた一つの方向づけとい
いますか、資料でございますけども、今ずっと拝聴しておりまして、この前の市民のワークショップで最
初の段階で私たち一つの方向づけを聞きました。そのときも非常に、恐らく委員の方々大変感動され
たと思うんですけども、すべての8地域に残されてきている今までの歴史的な遺産と継承している文化と、
そういったものを共通の新しい宝として大切にしていこうという一貫した共通の意識が酌み取れます。
それぞれの中で大切にされてこられた伝統なり技術をさらに守り続けながら、8地域の総合的な魅力と
して発展させようというはっきりした明快な意思というものがここに出てきているような気がいたしま
す。それぞれの地域でそれぞれのテーマをちゃんとお持ちになりまして、例えば三島町の人、現在の全
体のテーマに共通する大きなキーワードでありますけども、そういったものも出していただきました。
山古志村は独特の山村文化の共有化を図っていこうと、これなんかは大変魅力的な一つの提案ではない
かというふうな気もいたします。

以上、報告を受けましたが、ここからご質問がありましたらお受けしてまいりたいと思いますが、こ
れは、とにかくそれぞれの地域で整理をしていただいた内容ですから、足りるの足りないのなんていう
話ではなくて、これをWILLだと、WILLというのはやるということですから、こういうことをや
るよという一種の意思表示ということで、決意の表明というふうに受け取ってもいいと思いますけども、
その辺も含めてご意見がありましたらお受けしたいと思います。

はい、お願いいたします。

委員（山本俊一）

ちょっと気になったんですけども、それでいいじゃないかというふうな共通認識があればいいと思
うんですが、元気に満ちた米産地という表題があって、まごころ米の生まれる里というふうに2回米にこ
だわりを持った形のものが出ているわけですね。その中をみんな見ますと、これ農産物の関係のがみん
な出ているんですけども、米産地でまごころ米というふうに強調してあるんで、何か米、それにまつ
わるお酒だとかなんかという関連みたいなイメージがあるのを、中はやっぱり農産物の記述というふう
な形になっているんですけど、その辺あたりはどうでしょうか。共通事項でいいじゃないかというこ
とであればいいんですけども、その辺あたりを。

委員長（豊口 協）

どうでしょう、というご意見を山本委員の方からいただきましたけど、ほかの委員の方々で何かただ

いまのご意見に対して。どうでしょう、米の問題です、お米です。よろしいですか、それで共通で考えればいいのであればいいというふうなお話がありました。

はい、お願いします。

事務局（北谷）

ここは重点実現項目を今まで議論いただいたところを見ていただければわかりいただけると思いますが、別に米に限っているわけではありません。

委員長（豊口 協）

ありがとうございました。とにかく農業地域であるということは、これは否めない事実でありまして、その農業文化といいますか、農業技術といいますか、それをやっぱり強くトータルに打ち出していくということが必要だろうと、お米だけが日本全体に対しては非常にイメージが強いわけでありまして、それを中心とした農業生産物、新しい農業文化といいますか、そういうものを共通の課題として進めていこうということです。

はい、お願いいたします。

委員（朝日由香）

3ページの今と同じ元気に満ちた米産地のところなんですが、中之島町の実現すべき事柄の中に地域づくりに積極的に取り組む住民力（かあちゃんパワー）というのがあるんですが、これをちょっとご説明いただきたいのですが。

委員長（豊口 協）

かあちゃんパワーにつきましてご質問がありました。中之島町の方お願いいたします。

中之島町（小野）

かあちゃんパワーですよ、何でかあちゃんパワーが出たかという背景なんですが、大型ほ場整備をやりまして、集落営農という形で個人経営から集落全体の営農組織という部分に変わりつつあります。そうしますと、労働力といいますか、余剰労働力が出てくるということで、その余剰労働力の主たるものといいますか、お母さん方の結局負担が減っちゃうということで、その余った力につきましてはお母さん方はうちの方でありますとれたて市だとか花の道だとか生きがい健康づくりのボランティアだとかという部分で参加をされておられるということですので、とりあえずかあちゃん、とうちゃんじゃなくて済みませんが、母ちゃんをメインにあげさせていただきまして、余剰労働力によるボランティア活動への参加や地域活動への参加という形で、とりあえずかあちゃんパワーという形でまとめさせていただいたというものです。いかがでしょうか。

委員長（豊口 協）

ありがとうございました。

委員（佐々木保男）

補足します。従来農村地域というのは、女性に非常に過重がかかっていたわけですね。いわゆるそうい

った農作業から育児から家事から、それで本来そういった農業関係の会議だとか、農業のそういったのには男性が前面に出てきたわけですけど、私ども農業構造改善事業をやっている中で、やはり女性から前面に出てきていただいて、女性が元気のない農村というのはすたれるというような方針で、とにかく女性から前面に出てきていただくというような方針で進めてまいったんです。そうした中で、やはり女性の方がやっぱりそういったのには非常に熱心に取り組んでいただいておりますし、その一つの一環、成果としては今話が出ましたご婦人方の自主的なそういった朝市というんですか、農産物直売所とか、そういったのは成功しております。

委員長（豊口 協）

という説明をいただきました。いかがでしょうか。

委員（朝日由香）

趣旨はよくわかりました。私は農業をやっておりませんが、私もかあちゃんのわけです。この間小国町さんの方から老人パワーという言葉の表現力のところでいろいろご提案があったんですが、一応意味しているところは非常によくわかるんですが、言葉の使い方というところで、今佐々木助役さんがおっしゃっていただいた女性の能力をもうちょっと活用しましょうということであれば、もうちょっと表現を変えた方がいいのかなと。

委員（佐々木保男）

かあちゃんというのはまずいですか。

委員（朝日由香）

何かそこに特化するというか、最近若い女性の方も随分農業に関心を示しています。なので、わかりやすいと言えば確かにわかりやすいんですけども、もうちょっと違う表現の方がいいかなと、これは私個人的には非常にそう思います。

以上です。

委員長（豊口 協）

ありがとうございました。表現上の問題なんですけども、いかがですか。これ非常に実は重要だと思うんです。8地域での昔からの伝統的な考え方からいけばかあちゃんというのは余り抵抗がないだろうと私は思うんですけども、そうじゃなくて別の地域から見たときにやっぱりかあちゃんパワーと、これ横文字入っていますけど、そういうものを改めてそこでかあちゃんという伝統的な言葉とっちゃ語弊がありますけども、表現してあったらどうかということにもならないとも限りませんから、その辺どうでしょう。言葉のあやといいますが、非常に細かいことなんですけども、ちょっと重要な提案だろうという気がします。親しみがあっていいんですけどね。どうですか、全くいいよ、関係ないよというご意見があればそれでもいいんですけど。

委員（佐々木保男）

特に農業の場合ですと、例えば女性パワーや婦人パワーよりかあちゃんパワーの方がぴたっとくるん

です。特に我々農村部は。

委員（朝日由香）

意味合いとしてはよくわかりますけども、そういう意味で農業の女性たちの能力が必要というのは非常にテーマになっていて、いろんな新しい事業でいろんな活躍をしていらっしゃるというのも、いろんな全国の大会でも事例が出ているというのもよくわかるので、そういう意味でおっしゃっているのだろうというのはよくわかるんですが、その辺は今先ほど委員長がおっしゃったような従来型のイメージの外側から見たときに、せっかくそういう形で取り組んでいらっしゃるのに中之島町の政策というのが割とマイナスイメージかなと。それは私の印象ですけども。

委員長（豊口 協）

女性のパワーというのは私が長岡へ来て物すごく感じているんです。農家の方が野菜をお売りになっていますよね、朝市とかああいうところで。ご夫婦で来ていらっしゃると思うんですけども、値段を決めるのは全部ご婦人です。僕がこれちょうだいと言うと、ご主人は言わないです、黙って。その奥さんというか、かあちゃんがぱっと決める、100円とか200円とか決めていますが、あの辺は生活もやっぱりある意味では女性主導型なのかなという気がしますが。

はい、お願いします。

委員（山本俊一）

後で説明あるかどうかちょっとわからないんで、議題はこれで終わりなわけですので、ちょっとその先のことちょっと質問させてもらいたいんですけども、今これはいわゆる整理の仕方です。四つの柱ということで、各地区のものを持ってきたと、ここに集めたわけですね。それはそれで自分のところを知る、人のところを知ると、これはこれでいいんだと思うんですけども、いわゆる30万都市になったときには今までと違った発想、切り口でこういうことができるかというふうなものをやはり私どもこれから説明会だとかいろいろ入るわけですけども、そういったものというのはいわゆる全体的な切り口、あるいは地域の連携的な切り口だとかというふうなものはどういうふうな形でこれから構築されていくのか、その辺あたりちょっとお願いしたいんですけど。

委員長（豊口 協）

これは、事務局ひとつお願いいたします。

事務局（竹見）

将来構想策定の流れということで、皆さん方のところに資料が届いているかと思うんですけども、本日も議論いただいているのが統合ビジョンと、それから重点実現項目、本日自治体ワークショップによる作業ということで、各地の地域資源、それから地域別整備・活動方針を本日も報告をさせていただきました。ワークショップでは、今後各地域における地域別整備・活動方針、それから重点実現項目から導き出されます、一番下にご書いてございます各地域における具体的な活動項目というのをこれからワークショップの中で検討していくということになっております。そして、まず各地域でどういう活動がで

きるかということをもまず固めていくことが重要かということです。そして次に、先ほど連携というお話もありましたけれども、そこからどういう連携が考えられるかということワークショップの中で、21日にありますけども、そういったものを検討していくと、そしてワークショップの中でどういう連携があるか、そして最終的には地域として、全体としてどういう活動展開が出るかということについていろんなワークショップの中からアイデアとか、それから意見をいただいた中で整理して小委員会の方にご報告したいということで考えております。

委員（山本俊一）

ワークショップ、いわゆる各地域のところから出してくる、導くということですけども、そういうレベルのものではないと思うんですけどもね、各地域の振興策から出てきてそれが大きな固まりになってくる、それはそういう場合もあるでしょうし、全然違った今までとないような発想の切り口でやらなきゃならんというふうなものも出てくるんだろうと思うんですけども。

事務局（竹見）

そういったのも含めましてワークショップの中でご意見とかアイデアをいただいて、切り口として今おっしゃるようなことも含めて次の小委員会の方にご報告するというように考えております。

委員長（豊口 協）

今なかなかいいご質問をいただいたんですが、それぞれの地域の右側の肩にありますW I L Lというのがありますね。これは、要するにW I L Lということは意思表示であって、必ずこうするというそれぞれの8地域の決意なんです。この決意をしたということに関しての情報は、左側のC A Nというところ、こういうことを私たちはできるんだと、やってきたんだと、これをベースにしてこういうことをやりますよという意思表示がこのW I L Lであって、地域によっては非常に具体的な提案もありますし、ある地域ではちょっと言葉とありますが、ちょっとイメージとして提案をしておられるところもあるわけですね。恐らく事務局、コンサルとしては、このW I L Lという言葉の内容をもう少し精査をしながら、この小委員会でこのW I L L、これは結構だと、どんどんやってほしいと、こういうことが小委員会としての一つの方向づけのベースとして了承できるよということになりますと、このW I L Lと一番下にあります地域別整備・活動方針というものとジョイントさせまして、より具体的な今度は項目展開ということになっていくと思うんです。8地域全体が一本の柱としてやっていく事業と、それから伝統的なものとして8地域がさらに8地域の特性としてやっていくものと、いろいろこれから整理をしていかなきゃいけない問題がたくさんあると思うんですけども、やはり8地域が一緒になった新ながおか市という市になったときに、これとこれとこれが大きな一つのなすべき事業であり、事柄であり、まちづくりのベースだよということが見えてくると思うんですね。そうたくさんの方がここでできるとは思えませんが、W I L Lということについてももう少し目を通していただいて、これはもっとやれよとか、こんなことできるのか、抽象的過ぎるからもっと具体的な提案をしてほしいとかというご意見につながっていくんじゃないかなという気はするんですけど。

そういうわけで、WILL、グリーンのところですね、もう一遍さっごらんいただきまして、もし足りないようなことがあればこういうことぜひやってくださいよということを小委員会としてはそれぞれの地域に要望していただいていたと思います。

いかがですか。長岡市なんか割合に、もあっとしているんですけども、済みません。山古志村なんかの場合は非常に明快にぼんと、こう出ててましてわかりやすいという点もあります。特に長岡市の場合の3番目の世界がつながる安住都市の場合の想いや願いが叶うというのは、これは非常にわかりにくい言葉だったと思います。想いや願いが叶うと、市民力を生かすということですけど。これを現在の長岡市としては一つの安住都市のためのベースとしてこれをやっていこうと、こういうことになっていますが。これは、全体共通のテーマにもなっていくだろうと思います。それから、健康農業地域、これも恐らく全体共通の、見附市で出しておられますけども、これも共通の事業だろうという気がします。それから、お年寄りの経験が伝承できるまち、これも共通の一つの軸になっていくだろうと、そういたしますと全体整理をしますと、そんなにたくさんの事業が出てきているということではないだろうというふうな気がいたします。

この後さらにこれを整理していただいて、わかりやすく構造が見えてくるようにしていただくわけですけども、その次の段階ではさらに具体的なご意見をいただくような場がたくさん出てくると思うんです。例えば交通システムをどうするのかと、特に雪が多い地域ですから冬になりますと非常に交通が不便になるわけですけども、それをもっと交流都市だと、こう言っているわけですから、人と人が交流できるようなまちの交通システムをつくるためにはどうしたらいいかというふうなことが話題になってくるわけで、そのときに全部トンネルでつなげとかいう話にならないとも限りませんし、じゃ熱線が入ったガラスで囲まれたモノレールを8地域全部つないだ方がいいとか、そういうことも提案として出てくるかもしれません。これは、経済的にできるかできないかということは別問題として、そういう新しいここに住む8地域の人々の交流のネットワークをどうするかということも具体的には将来の展望として出てくるような気がいたしますけども。

それから、教育もそうですね、学校間の交流ということで、例えば年のうち半分は別の地域へ行って勉強するとか、そういうことも出てくると思うんです。特に長岡市内の小学生というのは、例えば山古志村のあの自然風景の中の体験なんかできるわけないわけですから。例えば年に半年は山古志村で勉強して帰ってくるとか、低学年の場合、そんなことも将来やらなくちゃいけないだろうという気はします。そういうふうにお互いに若い、小さいころにいろんな地域で勉強し、体験し、経験してくるということはすごく人生にとっていいことだと思うんです。それが新ながおか地域ではできる、やるんだということになりますと、これは画期的な事業でもあるし、人材育成の方策でもあるし、また周辺から注目されるだろうという気もします。どうぞ自由にご発言、ご質問等お願いしたいと思います。

はい、お願いいたします。

副委員長（二澤和夫）

ちょっと長岡市でございますので、長岡市のこと言いたいと思うんですが、4ページのところ、長岡市のところ、市民が想う、まちが動くという表現がございますが、これがちょっとわかりづらいと思いますので、実現すべき事柄としては非常にわかりやすいんですけど、その上の水色のところの囲ったところの市民が想う、まちが動くというのがちょっと表現としてわかりづらいというふうな気がいたします。それで、もう少し検討したらいいんじゃないかなと。

それから、5ページのところのやはり長岡市のところ、これも実現すべき事柄というのは非常にわかりやすいんですけども、人々の心の中に残りつづける世界都市への挑戦というふうな、その辺の表現がちょっとわかりづらいような気がいたします。それと、今見附の助役さんの方から出ましたように、今日は地域らしさとか地域別整備・活動の方針の議論ですから、これはこれでいいと思うんですけども、委員長もおっしゃいましたように30万都市になったからこそできるというか、30万都市になったらみんなの八つの市町村が力を合わせて何かをやるというふうな部分というのは当然あるかと思うんですけども、事務局ではそれらも今後提案していただけるということでございますので、これは今日はそれぞれの地域がこういうことをやりますということですから、おっしゃるとおりだろうと思うんですけど、これとは別に30万都市だからこそできるパワーとか、あるいは能力というふうな、あるいは条件というのはあるかと思っておりますので、その辺をこれからどう出していくかということもやっていく必要があるかと思っておりますので、私どももまた考えたいと思っておりますし、また材料も提供していただきたいというふうに思っております。

委員長（豊口 協）

ありがとうございました。

どうでしょう、それぞれの地域からこういう整理をされた資料が出てきておりますけども。違うよという方いらっしゃる、それはないと思っておりますけど。こうやってそれぞれワークショップの方たちのまとめと整理された内容を比較していただきますと、それぞれの特性がまた別の視点からよくわかるという気がいたします。今日は報告を聞いていただいて内容を十分にこれから、もう一度お持ち帰りいただいて勉強していただいて次のステップに入りたいと思っておりますけども、特にこれをごらんいただいて、これはちょっと問題があるなというふうなことがなければ、次の段階に進みたいと思っておりますけど、よろしいですか。

はい、お願いいたします。

委員（野田幹男）

このワークショップの問題については、それぞれの市町村が努力をされて今日まで歩んできたもの、よさ、あるいは新しい新市に向けてもこういうものは柱にしていきたいと、これは非常にいいことだと思うんです。みんなそれぞれの独自性が出ておると、勉強しておられて大変結構なんですけど、今いろいろ意見が出てきたように、それはそれとして、そして類似的なものもありますから、これはドッキングしていくと柱は絞られてくるという感じもいたします。そういう中で、今もお話出ていますようにそれ

それステップを踏んで前へ出ていくんでしょうけれども、今度は我々としてもそれぞれの地域でのまとめに入る、そういう時間もすぐ目の前にあります。そういう中では新市のいわゆる将来構想の基本になる、こういう部分はこうなるんですよ、こうするんですよというような地域住民の不安と申しますか、懸案事項をひとつビジョンを持って取り除いていくと、こういう作業に入っていかなければならんのかなというふうに考えておりますが、事務局からもぜひその辺をお願いいたしたいというふうに考えます。

委員長（豊口 協）

ありがとうございました。私イメージ持っているんですけど、木が生えてきまして今軸が見えてきました。その軸が大きく広がりながら枝が伸びていって花が咲いたと、いろんな花が咲いてやがてそれが実を結ぶわけですけども、全部出てきた実を、私は素人ですが、農業的に言うと全部それを実にするって決して大きくなると、その実を摘果というんですか、一つ一つ外していって一番成果のあがる実だけを残してそれを大きく育てるといふ、そういう作業があると思うんです。今の段階では、木が成長して枝葉が出てきて花がぱっと咲いた、これは特に市民レベルのワークショップのときのご報告を伺いますと、とにかく花がぱっと咲いているというすばらしい景色が目の前に浮かぶわけですけども、それに対して今度行政の方のワークショップが重なりまして、ようやくそれが実に変わりつつあると、その実のどれをとってどれを残すかというのはこれからの小委員会の一つの機能になってくるんだらうという気がします。そういう意味で、だんだん、だんだん目的がはっきり見えてくると思うんですけども、作業としてはしんどい作業で、これだけ実がなっているんだから何とか残そうよということになるかもしれませんが、その辺の作業がひとつ残されてきているんじゃないかなという気がしております。そういう意味で、これからがいよいよ最終段階で立派な地域になるかならないかという一つの大きな分岐点と申しますか、そういう時点に来ているような気がいたします。そういう意味で、小委員会としての責任というのがこれからも大きくなっていくだらうという気がしておりますけど。

はい、お願いいたします。

委員（北村 公）

これからが山場ということですが、スケジュール的には山場、前回も山場はかなりあったと思うんですけども、どういうふうな形でもってこれがスケジュール的にはまとまっていくんでしょうね。我々の議論次第だとは思いますが、おおよそ期日的にはどのくらいかかるのかということをお聞きします。

委員長（豊口 協）

スケジュールはこの前のときにお渡ししてあると思うんですが、大体、もうそのスケジュールから外れるわけにいかないというのはおしりが決まっているわけです。ですから、そこまでちゃんと、この前にお渡ししたスケジュールで進んでいくだらう、前の前だったかな、と思います。我々がここで意見をいろいろいただいておりますけど、出していますけども、それを事務局としてはすべて集約しながら、

さらにここで議論できるような資料を出してもらっておりますので、それにこたえていかなくちゃいけないだろうという気はしておりますけど。

ほかにご質問、ご意見ございませんか。

「なし」という声あり

委員長（豊口 協）

それでは、今日は与えられました時間が参りましたので、これで終わりたいと思いますが、事務局、あとよろしく願いいたします。

事務局（高橋）

今全体のスケジュールの話も少し出ましたので、今後の予定をお話させていただきたいと思っております。

次回8月の26日、時間は夕方といたしますか、夜といたしますか、6時30分からを予定しております。それから、どこまで8月26日で固まるかちょっとわかりませんが、9月の3日の協議会の本体には、前回中間報告という形で報告をさせていただきましたが、ある程度の固まりで9月の3日の協議会本体に報告させていただきたいと思っております。したがって、8月の26日の小委員会の後、29日の日に、中2日置いたようになりますが、もう一度小委員会をできましたらさせていただきたいと思っております。その形で9月の3日の日にある程度の状況を協議会の本体の方にご説明させていただいて、そこで協議会本体の方のご意見をいろいろお伺いしながら最終的なまとめに入っていくということでございます。最終的には、協議会は今の予定では10月上旬に最終の協議会をやるつもりでおりますので、その前に小委員会として、あと何回になるかわかりませんが、開催をしながら最後のまとめに入っていくというような全体のスケジュールになっておりますので、よろしく願いいたします。

委員長（豊口 協）

どうもありがとうございました。今のスケジュールに何かご質問がありましたら、よろしいですか。

「なし」という声あり

委員長（豊口 協）

はい、ありがとうございました。

それでは、これで小委員会終わりたいと思いますが、どうも今日はありがとうございました。

午後4時30分 終了